

生涯教育

2024

夏

季刊 No.135



琉球王国のグスクおよび関連遺産群（沖縄県）

2023年度 ライフシフト奨学生交流会・奨学生成果発表会	2
歴史研修「近江の城めぐり」	4
美術研修「千葉 佐倉道の美術館」をたずねて	6
第39回 彫刻奨学生作品展	8
プロフィール・インタビュー	12
国立教育政策研究所 初等中等教育研究部長 藤原 文雄さん	



2023年度

ライフシフト奨学生交流会・奨学生成果発表会

学び直しは、健康の大きな要素

ライフシフト奨学生交流会

この交流会は、社会人経験のある学部生、修士や博士課程で学んでいるライフシフト奨学生28名が一同に会し、研究内容や近況を報告し合い、交流を図り、互いに研鑽を図る会です。

冒頭、北野専務理事の挨拶の後、一般社団法人社会的健康戦略研究所代表理事 浅野健一郎氏に『ウェルビーイング社会とヘルスリテラシー』と題したご講演をいただきました。

「超高齢・人口減少を前向きに捉え、健康とは何かの問いかけ。肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態であること。単に病気でないことではなく『生き活き』と『生きる』や『仕事をする』こと。社員が健康である方がパフォーマンスを発揮

2024年3月16日、渋谷エクセルホテル東急において、ライフシフト奨学生交流会を開催しました。

※ライフシフト奨学金とは、人生100年時代を迎えて、一度社会に出て働いている方々が、生涯を通じて必要な時に必要なことを学ぶため、大学や大学院修士課程、さらには博士學位まで見据えて真剣に研究に取り組み、自身のライフシフトを容易に出来る様に、2021年に当財団で創設した奨学助成金制度です。



講演する浅野氏



総評する本庄教授



集合写真

することや健康経営がISO（国際標準化機構）で標準化されること。そして、健康であり続けるため『学び直し』が大きな要素である」とお話しいただきました。

ご参加の奨学生に、自己紹介、研究内容や近況などを発表いただきました。「社会人学生として学び直しをしている仲間が大勢いたことに勇気づけられた、刺激を受けた」などの話もあり、交流会を催した甲斐がありました。

奨学金選考委員長の青山学院大学教授 本庄陽子氏から総評と励ましの言葉をいただきました。懇親会では皆様、連絡先を交換するなど活発に交流され、予定時間を超過するほどの盛会ぶりでした。

奨学生成果発表会



オンライン成果発表会の様子

3月22日、科目等履修生、放送大学修士全科生の成果発表会がオンラインで行われました。

成果発表会は、科目等履修生として、または放送大学修士全科生として、働きながら学んでいる奨学生の成果を発表する場です。オンラインならではのですが、北海道や熊本県の奨学生も参加いただきました。互いの成果を聞くことで、「励まされた」「一層がんばろうという気持ちになった」など学びの意欲をかき立てられたようです。

50代から考える ライフプラン講座を開催



2024.2.10(土)

「50代から考えるライフプラン講座」を、(株)活性化セミナー研究所の豊澤敏明氏と緒方逸郎氏を講師に迎え、渋谷エクセルホテル東急にて開催いたしました。昨今、年金問題や老後の貯蓄について世間の関心が高まりを見せていて、定員を大幅に上回るご応募をいただきました。ご参加いただけなかった方が多数いらっしゃいましたので、次回は規模を拡大して開催します。



セミナー風景

生きがいとライフプラン

人生100年時代、退職後の時間を短くするために、第二・第三の仕事をしていくライフシフトが求められます。仕事をし続けるための努力が必要です。第二・第三の仕事は空から降ってくるわけではありません。「何をしたい



豊澤氏による講演

か「何ができるか」「何にこだわるか」を物差しに考えましょう。また、仕事を単に「賃金を得る」仕事から、誰かの役に立つ仕事「ライフワーク」へとシフトできたら素晴らしいです。それには、人とのネットワーク作りが重要です。今から準備をしましょう。

「仕事」や「地域」といった社会的生活、「余暇」や「家族」の個人的生活などの充実度が「生きがい」となります。社会的生活の「働きがい」から個人的生活の「暮らしがいい」へシフトしていきませんが、どちらかをゼロにしないことが鍵となります。

その他、年金制度、税金についての解説がありました。

ありたい姿を描いて プランを作成

収入と支出（基本支出）について収支を計算し、長期家計プランを20年分

作成します。

収入ー支出＋貯蓄＝残高

この残高が使えるお金となります。「いくら使えるか」でライフプランを描いていくのです。やりたいこと、ありたい姿を自由に描いていきます。そこにいくら使えるかで、出来る、減らすなどメリハリをつけます。また、ありたい姿を実現するための具体策を書き出していきます。

ご参加の皆様からは「可視化することです不安をどう解消するか分かった」「年金額や資産などを明確にすることができた」「基礎生活費の内訳が勉強になった」「資産運用や家計費の見直しをやってみる」とあり、それぞれ気付きがあったようです。



解説をする緒方氏



歴史研修

2024年
4月3日(水) ~ 4日(木)



近江の城めぐり

今回の歴史研修は、美しい姿を見せる国宝天守の彦根城、国指定の特別史跡である安土城跡、そして風情を感じる八幡堀めぐりと豊臣秀次の居城として知られる八幡山城跡を、歴史研究家の小和田 哲男先生とめぐり、学びを深める研修となりました。



解説

静岡大学名誉教授

小和田 哲男氏



雨の中、傘をさして石段を登る参加者



国重要文化財の天秤槽

彦根城

一日目、雨が降りしきる中で訪れたのは、全国に5つしかない国宝天守として知られる「彦根城」。この城は、徳川家康が実施した大坂城包囲網の一つとして、井伊直継・直孝兄弟によって江戸時代初期に建設されました。

彦根城は、江戸幕府の威光を示すための美しい外観に加え、軍事上の役割も果たしていました。彦根城は、江戸幕府の威光を示すための美しい外観に加え、軍事上の役割も果たしていました。



魔除けの意味があるとされる猪目 (ハートマーク)

意外と知らない? 「天守」の役割

城の象徴とされる天守には、10の役目があるとされています。その一つが、最終防御施設としての役割。城主は最後の抵抗として天守に籠城し、戦況を覆すことができない場合は腹を切るための儀式的場として活用されていました。



急な石段が続く大手道



石段の途中にある石仏

続いて向かったのは、織田信長によって築城されたという「安土城」。武家の時代を目指し、天下布武を掲げる信長にとって、公家勢力の強い京都に目を光らせる必要がありました。そのため、拠点である岐阜城と京都の中間地点である近江の地に安土城を建てたという説が有力とされています。安土城の建設は、信長の生涯にとって一つの転機になった出来事だと言われています。岐阜から安土へと拠点を移す際、岐阜城を息子の信忠に譲るとともに、織田家の家督までも譲りました。織田家のことは息子に任せ、自分は天下を司ると覚悟を決めたタイミングでもあったのです。

安土城



山の中腹にある
三重塔



圧倒的な景観



天主跡

安土城の見どころの一つとして挙げられるのは、石段に石仏が埋め込まれていること。信長は神も仏も信じない不信心な男という印象がありますが、近年は石仏を石段に組み込むことは城を盤石にするおまじないの行為だったとする説も浮上しています。一行は石段の一つひとつに注目しながら、安土城の痕跡をたどりました。

八幡堀・八幡山城跡

二日目に訪れたのは、近江八幡の地。近江八幡を語る上で欠かせないのは、豊臣秀吉の甥・秀次の存在です。秀次は殺生関白と呼ばれ、非人道的で悪名高い人物として有名ですが、これは秀吉が息子・秀

安土城の天守が、本能寺の変の原因になった？

安土城の復元が進む中で、信長が安土城に天皇をお招きしようと考えていたことが判明しつつあります。本丸御殿の間取りが京都御所の清涼殿の作りと酷似していたことから、その可能性が浮上。しかし、城の構造上、天守から天皇を見下す形になってしまいます。このことに疑問を感じた明智光秀が本能寺の変を決行したという説がささやかれています。



すれ違う参加者に手を振る小和田先生



咲き始めた桜に春を感じる



村雲御所瑞龍寺門跡にて



八幡山城跡へロープウェイで登る

頼に跡を継がせたいという思いから作られたイメージであるという説が有力です。それを立証するよう、近江八幡では秀次を善政を行った人物として語り継いでいます。秀次が行った政策の一つに、城下町が栄える基礎となった八幡堀の建設があります。八幡山城の城下町に水路を引き、経済・流通路として町の発展に貢献しました。現在も当時の景観が保護されており、船に乗りながら情緒あふれる八幡堀をめぐるしました。

次に秀次の居城である八幡山城跡に向かった一行。現在は石垣のみを残す形となっていますが、その石垣は「石垣の博物館」と呼ばれる金沢城に比肩するほどの人気があります。小和田先生の解説とともに、積み方の特徴やその理由を学びました。また本丸跡に建設された秀次の母の菩提寺、村雲御所瑞龍寺門跡にも訪れました。

がら青空に映える美しいお城を見ることができませんでしたが、参加者は足元に気を付けながら石段を登り、うつすら霧のかかる幻想的なお城を見ることができ、とても記憶に残る城めぐりとなりました。二日目は雨が上がり、時代劇の中に入り込んだような八幡堀めぐりで、咲き始めた桜を見ることができました。また、八幡山城跡はロープウェイで登り、小和田先生の解説に耳を傾けました。



北の丸址で先生の解説を真剣に聴く参加者



解説をする小和田先生



美術研修

2024年5月14日(火)
講師：美術研究家 沼辺 信一氏

千葉佐倉道の美術館をたずねて

千葉県にある日本画の巨匠の記念館と、豊かな自然環境にある美術館を日帰りで訪れました。



市川市東山魁夷記念館をバックに



KAIの森 東山魁夷の絵を庭園に再現



解説する沼辺先生

市川市東山魁夷記念館

市川市東山魁夷記念館は、20世紀の日本を代表する日本画家、東山魁夷が生涯の大半を過ごしたゆかりの地である市川市に、2005(平成17)年11月に開館しました。八角形の塔のある西洋風の外観でノスタルジックな建物の記念館です。

東山魁夷は、日本画家ですが、ドイツへ留学するなど、その作風は洋画のようでもあります。しかし、岩絵具で描かれていることから、確かに日本画なのです。

「舞台を彩る幕「緞帳」の世界」と「寺島照夫写真展」が開催されました。東山魁夷の緞帳の下絵や織糸が展示されていて、緞帳の作成過程が良くわかりました。写真展では、代表作の一つである「道」のモデルとなった場所での東山魁夷が写っている写真などが展示されていました。

権利の関係で記念館内部をお見せできないのが残念です。



クロード・モネ「睡蓮」1907年*



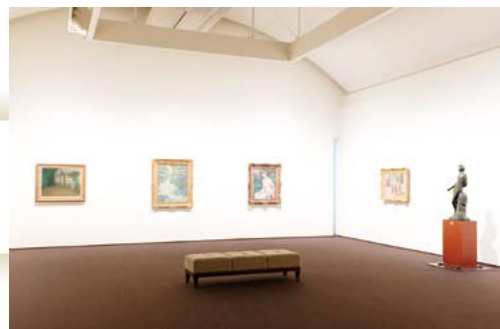
ピエール・オーギュスト・ルノワール
「水浴する女」1891年*



レンブラント・ファン・レイン
「広つば帽を被った男」1635年*



モネ「睡蓮」を彷彿させる庭園の池

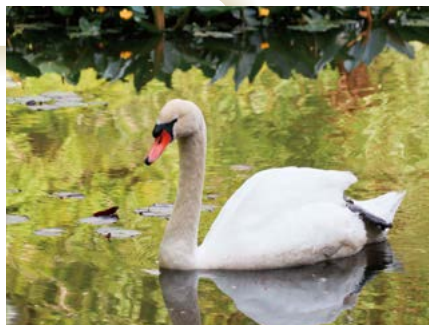


DIC川村記念美術館の展示室

※所蔵元：
DIC川村記念美術館



DIC川村記念美術館
ホームページ



優雅に泳ぐ白鳥



新緑に包まれたDIC川村記念美術館

美術館で実物の絵画や彫刻を見ることは、展示空間を含めて体験することだと改めて感じました。
建物や庭園を楽しむことで、感動が2倍3倍に膨らむものです。また美術館へ足を運びましょう。

企画展「カール・アンドレ 彫刻と詩、その間」が開催されました。1960年代後半のアメリカで興ったミニマル・アートを代表する彫刻家で、日本で初めての個展です。

この美術館の特徴の一つである、広大な庭園が素晴らしく、よく晴れた青空に新緑が映えて、とても美しかったです。また、ヒツジグサが咲いていてモネの「睡蓮」を彷彿させる池がありました。

17世紀のレンブラント、モネやルノワールの印象派の名作から20世紀後半のアメリカ美術まで見応えのある作品が展示されていました。マーク・ロスコの「シーグラム壁画」は、7枚の大作が専用の部屋で展示され、独特な雰囲気空間が作り出されていました。

DIC川村記念美術館は、DIC株式会社（旧大日本インキ化学工業株式会社）が関連企業と共に収集した美術品を公開している施設です。20世紀美術に主眼を置いた多彩なコレクション、建築として庭園の自然の三要素が調和したとても素敵な美術館です。講師の沼辺先生がかつて学芸員を務められた古巣でもあります。熱の入ったより詳しい解説を聞くことができました。

DIC川村記念美術館

第39回 彫刻奨学生作品展

2023年11月27日～12月8日まで、日本大学芸術学部江古田キャンパス内で「第39回 彫刻奨学生作品展」が開催されました。

奨学生5名の作品がギャラリーや資料館に展示され、多くの方が若い芸術家の作品を鑑賞しました。また、奨学生の作品は3月に山梨県笛吹市「ふじめた藤堡の滝 おおくぼ大窪いやしの杜公園」に設置され、笛吹市の皆様の芸術鑑賞の場となっています。設置された彫刻作品は今回で100体を越え、地元の新聞や広報誌にも記事が掲載されました。10月には公園で開催される「星空ミュージアム」に合わせて記念式典を開催する予定です。スタンレー電気株式会社のご協力によりライトアップされた彫刻と和傘、そして満点の星空の素敵な出会いをお楽しみください。

日本大学芸術学部
美術学科
浅山 夏音さん



『形状記憶』



『安堵の海』

『いちばん近い海に行こう』



『蚕蝕』

2年生の必修課題に「自分の思い入れのある服」をモチーフに制作するというものがあり、中学生時代のセーラー服をテラコッタで制作しました。柔らかさや薄さを出すのは難しいのですが、意外と造形しやすかったです。設置作品は冬虫夏草のサナギタケをモチーフに、種そのものや社会性、形に着目して陶(信楽白土)で制作しました。焼成が終わるまで仕上がりが分からないという部分が魅力でもあり不安要素もありました。個々の関係性に注目し、想像を膨らませてみてほしいです。今後は学芸員として鑑賞者と作品をつなぐ手伝いができればと思っています。

日本大学大学院
芸術学研究科
小林 紗己さん



『uzomuzo 8』



『bonsai』



『uzomuzo 4』



『uzomuzo 8』

自身の内側にある形をコンセプトに、思い浮かんだ形を作品化しています。素材とのやり取りを通じて、自身の内側にある形を追い求めています。設置作品はベトナム産アイスクリスタル(大理石)で制作しました。大型の石彫作品が初めてだったので、制作をはじめ梱包や運搬などでとても苦労しました。来園者には見て触れるのはもちろん、座ってみたり、抱きついてみたりして五感すべてを用いて形を感じてほしいです。春から本学の彫刻研究室助手として勤務しながら、今後も石を用いた彫刻制作を続けて作品を発表していきます。

女子美術大学芸術学部
美術学科
宮島 彩さん



『1メートル先の微動』



『ダイニングテーブル』



『見えない物体』

設置作品「見えない物体」は、3枚並んだ鉄板の間、くぼみ／ふくらみの連なりの間、この彫刻の周りの空間に何らかの存在を視覚的・感覚的に感じられる彫刻を目指しました。一見相反する両者が相互に影響し合うことによって互いの存在を明確にしている、ということを確認したいと思い制作しました。来園者にも作品に付随する空間、空気を意識してもらいたいのので、彫刻の周りをゆっくりぐるぐる歩きながら見てほしいです。大学院に進学し、引き続き彫刻を研究し制作していきます。卒業後も彫刻家として活動したいと考えています。

多摩美術大学大学院
彫刻専攻
坂本 茂乃さん



『思い出の空と山の稜線』



『心のモビール』



『色水ややな』



『寄す処』

公園に設置する作品は五輪塔や灯籠をモチーフにすることを決めていました。5つがバラバラになると意味がなくなる儚さや、その場所に行くとは別の世界に通じることができそうな表現ができることに魅力を感じていました。また、自然豊かな場所に自然と共存するための作品として、石にトンネルのような穴をたくさん作り、小さな生き物が入れる空間のある作品にしました。白御影石と桜御影石でできています。石の平面出しは地道な作業で大変でした。鑑賞する際は、大きな物体とその内側で起こっている何かを感じ取ってほしいです。

日本大学芸術学部
美術学科
板垣 冴知さん



『もっと撫でて』



『あのこはだあれ?』



『至福』



『今日のご飯』

亡くなった猫の柔らかさ、温もりを感じたいと思い、もう叶わない夢を「至福」という作品に残しました。「もっと撫でて」は実家の猫を他の方にも見せたくて制作しました。設置作品は、ある日ピザを縦にして持ち帰る男の子を目にした際、案の定ピザは崩れてしまっているのですが、気にする様子がありませんでした。その様子が衝撃的だったのでそれを作品として誰かに伝えたいと思い制作しました。楽しんで見てほしいです。そして作品を見たあとにピザを買って、今日のご飯にしてほしいです。縦にして持ち帰るかどうかはお任せします。

北野財団混声合唱団チャリティコンサート

Vol.6

祈り、
そして希望

2024年3月10日（日）

2 0 2 4 年 3 月 10 日、当財団主催による「北野財団混声合唱団チャリティコンサートVol.6」を、めぐろパーシモンホール小ホールで開催いたしました。

北野財団混声合唱団は2012年から毎年参加者を公募し、当初は「フォーレのレクイエムを学び歌う会」の名称で「東日本大震災鎮魂コンサート」として活動を始めました。5年の活動を経て2018年に現在の名称に改称し、ただ歌うだけでなく幅広い教養と経験を求められるよう、結団式では多岐にわたるテーマで専門家を招き講義を行い、コンサートではさまざまな楽曲に取り組んでいます。

今回のコンサートは「祈り、そして希望」というテーマを掲げ、10月から半年間の練習に励んでまいりました。ようやくコロナ禍が落ち着き、以前の日常が戻ってきた矢先、折しも1月1日に能登半島地震が発生いたしました。大変大きな被害があり、今もなお避難所生活が続いている状況に心を痛めました。そんな困難な



半年間の合唱指導と本番の指揮をしてくださった竹内雅拳さんと荒牧小百合さん



素晴らしい歌声を披露した大音絵莉さん

状況にある方々に希望の光を灯すことができるよう心を込めて歌いました。

公募により集まった総勢60名の合唱団員が、まず平和への願いを込めて「われらに平和を与えたまえ」を女声、テノール、バスの3パートのカノンで演奏しました。次に福島在住の詩人・和合亮二氏が東日本大震災6日目から「X(旧Twitter)」で発表を開始した「詩の磔(つぶて)」に心を動かされた友人である新実徳英氏が12曲気連作した「つぶてソング」の中から、優しいの中に力強いメッセージが込められている3曲を歌い上げました。コンサートの最後には毎年恒

Program

第1部

われらに平和を与えたまえ【アカベラ歌唱】

《つぶてソング第1集・第2集》より

第1曲 あなたはどこに

第7曲 なぜ生きる

第12曲 重なり合う手と手

新実徳英作曲 / 和合亮一作詩

春

《女性詩人による三つの譚歌(バラード)》より

信長貴富作曲 / 新川和江作詩

第2部

花の街 團伊玖磨作曲 / 江間章子作詞

マリアの子守唄 M.レーガー作曲

イスラエルよ、聞け、主の御言葉を聞け

オラトリオ《エリア》より

F.メンデルスゾーン作曲

主を賛美せよ

《証聖者の荘厳晩課》より

W.A. モーツァルト作曲

《晩禱》全曲

・神よ、速やかに私を救い出してください

・主は言われた

・あなたに告白します

・主を恐れるものは幸いです

・主を讃えよ

・主の下僕らよ

・我が心、主を崇め

J.G. ラインベルガー作曲

花は咲く

菅野よう子作曲 / 岩井俊二作詞 /

山田香編曲 (編曲委嘱作品)

例となっている「花は咲く」を出演者全員、そして来場者は心の中で歌い、会場は温かい大きな拍手に包まれました。

コロナ禍のため2020年はコンサート直前で中止となり、大変悔しい思いをしました。1年間は活動ができず、その後も人数を減らしパートごとに分けての練習や、無観客での3年ぶりのコンサート。2023年はマスク着用ではありましたが、じつに4年ぶりの有観客コンサートと、さまざまな困難がありました。今回やと通常のコンサートを開催することができ、歌う喜びを噛みしめました。来場者からは「今まで一番素晴らしい」とお声をいただきました。この秋から来年に向けての練習が始まります。また素敵なハーモニをお届けできることを願っております。

なお、コンサートによるチケット収入は、予定していた気仙沼市ではなく、能登半島地震復旧・復興支援のために役立てていただくよう石川県に寄付いたしました。

ご報告



2024年度 音楽奨学生奨学金授与式

2024年4月4日、愛知県立芸術大学において、第16回音楽奨学生奨学金授与式が、入学式終了後の音楽学部新入生ガイダンス会場で行われました。

この奨学金制度は、当財団が芸術振興の一助として、同大学の学生を対象として2009年より実施しています。多くの学生の中から奨学生に選ばれた優秀な3名に、沓澤 利治常務理事から奨学金が授与されました。奨学生たちは、選ばれた喜びと抱負を熱く語りました。今回の3名を加えると奨学



左から 庄司直央さん(クラリネット)、黒田真央さん(声楽)、伊藤元太さん(作曲)

お知らせ



デジタル一眼レフカメラ講座

今回のデジタル一眼レフカメラ講座は軽井沢で開催いたします。講義を受けたあと撮影実習を行い、参加者の作品を投影しながら先生からご講評をいただきます。素敵な瞬間を写してみませんか。後日、中目黒GTギャラリーで作品展を開催します。

日程

2024年

9月6日(金)

7日(土)

定員

20名



2023年の講義の様子

講演会

小山 豊 meets 島 裕介 とJAZZ

和楽器とJAZZの融合は洋楽なのか邦楽なのか、それは「和JAZZ」。

津軽三味線、トランペット、ギター、和太鼓の素晴らしい演奏をお楽しみください。

楽器・奏法の解説、三味線・和太

鼓の体験もあります。

日程 2024年9月14日(土)

13時開場 13時30分開演

会場 めぐるパースimonホール小ホール

定員 200名

歴史研修 福島城めぐり

国指定史跡の白河小峰城、難攻不落の名城としても有名な鶴ヶ城(会津若松城)、自然の要害地形を利用して営まれた中世および近世の城跡である二本松城、歴史研究家小

和田哲男氏と共にめぐります。



鶴ヶ城

日程 9月18日(水)～19日(木)

講師 小和田哲男氏

定員 40名

こ・ち・ら・編 集 室

当財団では本誌2ページでも紹介していますが、一度社会に出て働いている方に対しての奨学助成をおこなっています。奨学生は日々忙しく働いて時間が取れない中でも自身の志す未来に向かって勉強に励み、真剣に研究を続けています。今からでもいつからでも遅くはありません。向学心を後押しできるよう、これからも財団は活動してまいります。

設立のねらい

当財団は、スタンレー電気株式会社の創業者北野隆春の私財提供により、生涯教育の振興をはかる目的で1975年6月23日、文部省(現文部科学省)の認可を得て発足し、2010年12月1日に公益財団法人となりました。当財団は、いつでもどこでもだれでも学べる機会をつくり、学ぼうとする方々に対し、より豊かな生きがいを持てるよう、時代が求める諸事業を展開してまいります。

生涯教育だより 第135号

2024年7月10日発行

編集人 沓澤 利治

発行人 北野 重子

発行所 公益財団法人 北野生涯教育振興会

〒153-0053 東京都目黒区五本木1丁目12番16号

電話 東京 03(3711)1111

表紙ギャラリー

当財団は、『出会いはドラマ、感動する心を大切に』というスローガンのもと、出合いを大切に、様々な学ぶ機会を提供してきました。人との出合いだけではなく、城や神社仏閣などの歴史的建造物や長い歴史に育まれた美しい原風景との出合いからも学ぶことは多いのではないかと考え、『世界遺産』を財団機関紙でご紹介します。

琉球王国のグスクおよび関連遺産群(沖縄県)

日本の中で歴史的にも風土的にも特別な地域のひとつである沖縄。その沖縄本島南部を中心に点在する琉球王国の史跡群が、2000年12月、日本で11番目の世界文化遺産として登録されました。沖縄では「城」という字をあて「グスク」「グシク」と読みます。いつ頃つくられたかは定かではありませんが、概ね14～15世紀に城塞や居城として建てられたといわれています。現在、グスクの多くは城壁や城門を残すのみとなっていますが、その精巧な積み石技術から当時の隆盛がうかがえます。

琉球王国は、1429年に北山(ほくざん)・中山(ちゅうざん)・南山(なんざん)と呼ばれていた3つの小さな国が統一されて誕生し、王城である首里城を中心に政治、文化芸術、祭祀の分野などに独自の発展を遂げました。

遺産群は、今帰仁城跡(なきじんじょうあと)、座喜味城跡(ざきみじょうあと)、首里城などを含め9つあります。

そのひとつである斎場御嶽(せーふあうたき)の大岩の荘厳なたたずまいは琉球の精神文化の象徴であり、最も聖なる場所として現在でも敬われています。

2019年の首里城の焼失という衝撃的なニュースには、心を痛めた方もたくさんおられたことでしょう。実は約450年間の王国の歴史の中で首里城は3度焼失し、日本へ併合後も沖縄戦など火災に見舞われましたが、その度に多くの人々の思いと協力により再建を果たしています。

目の覚めるような朱色の首里城は、2026年に戻ってきます。美しい姿がふたたび披露される日が待ち遠しいですね。



y.uemura/PIXTA



国立教育政策研究所
初等中等教育研究部長

藤原 文雄 さん
FUMIO FUJIWARA

学びとは生きること、 そして、新しい自分と未来を創ること

当財団の奨学金選考委員会の選考委員を務める藤原さん。
ご自身の経歴をもとに、生涯学習に対するお考えをお話いただきました。

―藤原さんの経歴と、現在の主な研究内容についてお聞かせください。

高度成長期に、造船と焼き鳥の街として知られる愛媛県今治市に生を受けました。本のためならお金を惜しまない家庭で育った私は、北杜夫さんの『船乗りクラブの冒険』や深田祐介さんの『新西洋事情』など、多くの本を通じて世界と出会い、「世界は愉しいものに満ちあふれている」と期待に胸をふくらませました。今にして思えば、当時の私にとって本は「世界のゲートウェイ（出口）」だったのです。

外の世界への憧れを募らせていた私は、新卒

で海運会社に入社。ニューヨークやロンドンなど世界とつながりが持てる仕事でしたが、一生続けるかどうか考えた時、キャリアチェンジを決意。その後、東京大学大学院に戻り、教育行政学の道に進みました。

幼い頃に私が本を通して世界を知り胸を躍らせたように、今を生きている子どもたちにも世界と出会ってほしい。そんな思いから、GIGAスクール構想^{*}に係わる研究に携わっています。ICT端末とネットワーク環境さえあれば誰でも世界とつながり、どこでも学ぶことができる。こうしたICTや多様な教職員の専門性を生かした新しい学校の実現に向けた研究を推進しています。

―奨学金選考委員会の選考委員を務めていただくことになった経緯について教えてください。

恩師である鈴木真理教授からお誘いいただいたことがきっかけです。これまで数々の願書を読ませていただきましたが、いずれにもキャリア実現への切実な願いが詰まっています。お金を必要としない学びもたくさんありますが、看護師資格や教員免許の取得など制度とつながった学びに多額のお金がかかるのは厳然たる事実です。だからこそ北野財団が取り組む奨学金の無償給付事業は、独力では学ぶ機会を得られない人たちに資格取得の機会を提供するとともに、業界の

多様性を豊かにする上で、大変意義深い取り組みだと思っています。

―生涯教育に対するお考えをお聞かせください。

生涯教育とは、学びを支援するための仕組みや専門的支援のことです。では、そもそも学びとは何でしょうか。東大名誉教授の佐藤学さんから、「学びの本質は出会いと対話である」とお聞きしたことが私に強い影響を与えています。私たちは人生の中でたくさんの本やモノ、人と出会います。それらとの対話を通して私たちは自分と出会い、そして自分と対話をする。つまり学ぶということは生きることそのものであり、出会いと対話を通じて、新しい自分と未来を創ることなのです。

近年、生成AIなど最新技術の台頭がめざましいですが、人の喜びや悲しみに寄り添い、真に他者を理解することは人間にしかできないと思います。共感や他者理解を起点として、役立つことを通じてレベルアップし続けることは、生涯学習の王道です。もちろん、他者だけでなく自己をケアし、自分に役立つことも重要です。こうした学びを社会として支援することにより、個人と社会のウェルビーイング^{*}を高めることが、生涯教育の存在価値だと思います。

―余暇の過ごし方を教えてください。

一般に余暇とは、食事や睡眠、仕事や家事

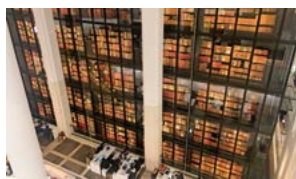


など生きる上で必要な活動をする時間以外の自由に使える時間と言われます。私の場合は、必要な活動時間と自由に使える時間の区別は意識していません。もちろん、勤務中は仕事をしていますが、専門職なので勤務中も自律的に時間を使えますし、勤務外に仕事をするのもしばしばです。勤務外では旅行や映画を見ることが大好きです。

―読者の皆さんにメッセージをお願いします。

「がんばったら報われるとあなたがたが思えることそのものが、あなたがたの努力の成果ではなく、環境のおかげだったことと忘れないようにしてください」。これは東京大学の入学式で同大学名誉教授の上野千鶴子さんが行ったスピーチの二節です。たしかに日本に住む私たちは人類史上稀にみる幸せな時代を生きていますが、世の中がすべて平等だと言えないのもまた事実です。だからこそ、北野財団の活動は非常に意義深いと思います。そして本活動に尽力されている皆さんは、公正で革新的な未来を創るパイオニアです。ともに胸を張る本活動に取り組んでまいりましょう。

「教育に携わる一人として、子どもたちにさまざまな人や世界と出会ってほしい」と話される藤原さん。当財団の活動が、より多くの方の学びの充実につながるよう、今後ともご指導をよろしく願っています。



海外旅行先で撮影した写真

^{*}GIGAスクール構想 2019年に開始された全国の児童・生徒に1人1台コンピューターと高速ネットワークを整備する文部科学省の取り組み。GIGAは「Global and Innovation Gateway for All」の略で、全ての児童・生徒のための世界や革新につながるゲートウェイという意味が込められている。

^{*}ウェルビーイング 身体的・精神的・社会的に満ち足りた状態。